

第74回日本助産師学会

“愛” 尊厳ある生
～いのちに 寄り添う しなやかな助産師～

《分科会・シンポジウムご案内 第2報》

開催日時：平成30年5月26日（土）

9：30～16：00

開催場所：石川県文教会館

（石川県金沢市尾山町10番5号）



分科会① 正常産を考えよう

「ガイドラインを遵守して、より豊かな正常産を目指そう！」をサブテーマに、病院助産師と開業助産師の視点から、論議していきます。正常産とするには、その影に助産師の臨床知に裏打ちされたアセスメント力やケア力、産婦人科医師との連携など、知と技が織り込まれた行動により、安全と安楽が確保され正常産に行き着けることでしょう。話題提供者からは、正常産に至る道筋を語っていただき、参加者からの質疑応答により議論を深めて参りましょう。

【話題提供者】

- ・馬目裕子氏 : 勤務助産師（日本赤十字社医療センター看護部看護師長）
「スーパー総合周産期医療センター」と言われる施設に所属され、ハイリスク妊産婦が多いにも関わらず帝王切開率が 25%ということから助産師の奮闘とよりよい産科医との連携が伺われます。
- ・毛利多恵子氏 : 開業助産師（毛利助産院院長）
親子 2 代で助産院を開業し、妊産婦のさまざまなニーズに応えながら、安全で正常な出産を提供されてきました。

このお二人の話題提供を受け、熱く語り合って参りましょう。

分科会② 多様な性をどう考えるか？

昨今 L G B T という言葉で性的マイノリティについて表現され少しずつ社会的承認がなされているかと思われましたが、近々の広辞苑改定で L G B T の説明文に誤りがあるとの指摘が、当事者から寄せられました。

このように、様々な情報飛び交う中、多様な性を正しく理解することは容易ではありません。

本分科会では、助産師として性の多様性について基本的なことを理解し、児童生徒の抱える問題、また成人になってから新たに出現する問題についても考えていきたいと思えます。

【話題提供者】

- ・植田幸代氏 : 開業助産師
性の多様性を理解しよう。今、何が問題なのか。
- ・ヨヘイル氏 : ネスク D S D ジャパン代表
性別に対する性分化疾患当事者の想い。
思春期に発覚する性分化疾患について。

なかなか当事者が可視化できず、当事者の存在が認知されていない地方の現状のなか、私たちにできることを会場の皆さんと共に話し合ひましょう。

*分科会②～⑤は定員がございます。お早めにお申し込み下さい。

分科会③ ヤングミッドワيف トーク&トーク

助産師。この仕事の可能性は、今いろいろなところにあります。

10年後の自分を考えることはありますか？

なりたいと思う自分の姿はありますか？

仕事上の経験はもちろん、プライベートな経験も重ねるにごとに助産師という仕事に対する思いも変わってきませんか？

今、現在のままのあなたでの参加をお願いします。

あなたの中にある、夢、希望、迷い、自分のための時間を作ってみましょう。

全国から集まる助産師と出会い、語り合しましょう。

石川県助産師会の40代、50代、60代の助産師がファシリテーターを務めます。

分科会④ 乳房マッサージにおける感染管理

助産師が行う母乳育児支援の中で、乳房マッサージは大きな割合を占めています。CDC（米国疾病予防管理センター）ガイドラインのスタンダードプリコーションでは、母乳を含む体液を扱う際には、手袋・ゴーグル・フェイスシールド・防水ガウンの着用等の感染防御対策を講じるとされています。

母乳を介した感染に曝露されたり、感染経路になったりしないための感染防御は必要ですが、スタンダードプリコーションをすべて実施する事に困難を感じる助産師も多いのではないのでしょうか。なぜならば、感染防御を徹底すると、乳房マッサージが本来持っている癒しのケアの側面が損なわれる可能性があるからです。

この分科会では、ご自身が実践されている乳房マッサージにおける感染管理について話題提供をしていただき、その後にグループワークを行います。助産師が抱えるジレンマをふまえ、有効な感染防御対策をとりつつ、ケアを受ける母親と助産師の双方が納得できる方法を皆で作っていきましょう。

【話題提供者】

- ・ 淵元純子氏 : 開業助産師（日本助産師会保健指導部会長）

分科会⑤ 助産師らしい乳房ケア

近年、母乳育児に対しては、様々な角度からのアプローチがあります。

その結果、母乳哺育普及率の上昇が認められてきています。しかし、ケアを受けても十分に満足できなかった、育児に自信を持てるに至らなかったとの声もあります。

この分科会では、宮下美代子氏（神奈川県みやした助産院）を迎え、単に生理的な知識に留まらず助産師らしい乳房ケアとは何なのかを追求する機会にしたいと考えました。

「助産師にしかできない、助産師だからこそできる乳房ケア」について共に意見を交わしましょう。

1. テーマ

産痛をどうとらえるか ～産痛緩和における助産師の果たす役割とは～

2. 主旨

産痛は、産婦に不安・恐怖・緊張をもたらし、分娩進行を妨げる要因になると共に、産婦の分娩への意欲や自信を失わせます。産痛緩和は、産婦の自己効力感や自己実現を高め、その後の子育て力を強めていくことになるでしょう。

これまで、産痛緩和にはラマーズ法をはじめとして、ソフロロジ、イメージリー等々により痛みの緩和を産婦とともに行われてきました。産痛緩和は助産師の重要なケアです。産痛緩和に産婦自身のセルフケア力を引き出す方法のみならず、麻酔分娩も選択の1つとされ、近年急速に普及してきています。

助産師は、産婦が、どのような産痛緩和方法を選択しようとも、専門的なケアを提供する役割を担っています。今回、北陸三県のいろいろな施設の助産師から産婦人科医師から、それぞれの臨床経験をから基に産痛緩和について話題提供していただきます。

3. シンポジスト

【助産院・クリニックから見た産痛緩和】

瀧澤助産院 助産師 佐野裕子氏

ママBBクリニック 助産師 米田寿美氏

【無痛分娩（麻酔分娩）から見た産痛緩和】

恵愛会恵愛病院理事長 産婦人科医師 村上弘一氏

富山市民病院 助産師 武田ひとみ氏

4. 座長

彦野亜希子 恵愛病院 助産師

柳原真知子 金城大学 教員



*お申し込みは〈FAX〉または〈郵送〉にて

【お申し込み先・ご参加のお問い合わせ】

◎FAX 076-259-5822 ◎TEL 076-259-5517

◎郵送 〒921-8178 石川県金沢市寺地2丁目21番5号

株式会社トラベル・アイ「日本助産師会」申込受付係

【お申し込み期日】 平成30年4月10日（火）

詳細は（公社）日本助産師会ホームページをご覧ください